

1992年

国交正常化二十周年にあたり、当協会は三つの大型文物展を開催。相互の訪問団も活発だった。十月、天皇皇后両陛下が初めて中国をご訪問。両陛下は出発の前に皇居で茶会を催し、当協会の千田是也、團伊玖磨両代表理事、白土吾夫専務理事が招かれて出席した。八月、中国と韓国



日中国交正常化二十周年を記念し、当協会などが主催した特別展「曾侯乙墓」を、二質問をまじえながら、熱心に鑑賞される天皇、皇后両陛下。両陛下はこの年の十月に中国を公式訪問された

一九九二年五月一日 東京国立博物館

が国交を樹立。

〇二〇年の主な交流

〇1月 日中国交正常化二十周年記念「中国麦積山石窟展」東京 日本橋高島屋で開催。主催・当協会、日本経済新聞社、開幕式に同展甘肃省文物代表团(張柏樹長)が来日。同展は引き続き大阪、京都、横浜で展覧。

〇3月 上海市文学芸術界連合会代表团(劉雲团长、鄺国義、李慶福、漆啓泰、高勝利の諸氏)来日。日中国交正常化二十周年記念「特別展 曾侯乙墓」よみがえる中国戦国時代の美と音

東京国立博物館で開催、主催・東京国立博物館、当協会、日本経済新聞社、開幕式に同展代表团(韓南鵬团长)が来日。日本「第八回中国書道研究会」訪中団(伊藤鳳雲团长、長揚石秘書長、関根薫園参与、中野暁秘書、尾崎蒼石、市川嘉泉、薄田東仙、嶋溪翠、高際翠、邦、駒崎流芳、土田詢扇、種谷萬城、豊田育香、山田白苑、駒崎成峯、中村旭鳳、七澤象聲、相澤知光、芝松翠らの諸氏)訪中。福岡で「日本中国環境法シンポジウム」開催、地球環境科学学会、人間環境問題研究会(加藤一郎代表)、福岡大学主催、当協会など後援。利根山光人常任理事が甘肅省各地の写生のため訪中、当協会が協力。

〇4月 中国人民対外友好協会の韓叙会長一行来日。江沢民総書記が来日、東京で講演会(当協会などが主催)。中国文学芸術界連合会代表团(李瑛团长、王偉華、李振玉、陳章武、王金星、秘書兼通訳、趙平の諸氏)来日。日本「中

国曲芸鑑賞」訪中団(岡本文弥团长、中野暁秘書長、岡本宮之助、吉川英史、吉川節子、吉川周平、平井澄子、岡本弥生、尾上兼英、尾上富美子、永井啓夫、永井富子、稲田和浩、内海弘子らの諸氏)訪中。

〇5月 三好徹、村上豊、野口義徳の諸氏が「三国志」ゆかりの地の取材に訪中、当協会が協力。日本出版友好訪中団(緑川亨团长・岩波書店前社長、吉田晴彦・築地書館監査役、土井庄一郎・築地書館社長、中島義勝・前岩波書店専務、江草忠敬・有斐閣社長、小島昌光・桐原書店専務、佐藤克身・福音館書店社長、江草祥子、佐藤潤一、佐藤祥子秘書の諸氏)訪中。中国映画人代表团(康慶雲团长、丁蔭楠副团长、王鉄成、張兆竜、王黎傑の諸氏)来日。万里全国人民代表大會常務委員会委員

長が衆参両院議長の招きにより来日、当協会など日中友好団体が歓迎会。

〇7月 日本演奏家代表团(團伊玖磨团长、林輝、小林武史、中澤桂、高丈二、大和田葉子、小谷彩子の諸氏)訪中、福州、泉州、厦門の三市で演奏会。日中文化交流協会代表团(水上勉团长、鈴木治、岩波剛、佐藤純子、静永鮮子、小阪裕二の諸氏)訪中。中国人民対外友好協会代表团(王效賢团长、顧子欣、葉辛、劉子敬、張海月の諸氏)来日。日中国交正常化二十周年記念「シルクロードの都 長安の秘宝」展、東京・セゾン美術館で開催、主催・セゾン美術館、当協会、日本経済新聞社。同展中国代表团(陳再生团长)来日。同展は

引き続き大津と北九州で展覧。日本民俗音楽学会訪中団(田邊秀雄团长、田邊路子、近藤忠造副团长、小暮實代秘書兼通訳、東樹誠司、東樹和子、長谷坂栄治、藤井昭三、村中利男、山川美知子、山川光子、山川勲らの諸氏)訪中。

〇8月 日本音楽家代表团(原嘉壽子团长、秋山邦晴、山口恭範、浦田健次郎、佐藤祥子秘書の諸氏)訪中。金原出版株式会社、中華医学学会に学術図書(第十九次分)贈呈、当協会が協力。

〇9月 日本出版代表团(服部敏幸团长・講談社名誉会長、長坂一雄雄山閣社長、前田完治三修社社長、嶋中行雄中央公論社副社長、菅原善雄徳間書店取締役、乾源哉講談社社長室秘書長、佐藤祥子秘書の諸氏)訪中。中国演劇家代表团(于是之团长、何孝允副团长、黄念琦秘書長、徐榮、劉遠、李華藝の諸氏)来日。中国美術家代表团(王琦团长、宋惠民、劉大為、譚權書、陶勤秘書の諸氏)来日。日本「民法・環境法」学者訪中団(野村好弘团长、浅野直人秘書長、石外克喜、三田地宣子、植木砥雄、高木治通、原信之秘書の諸氏)訪中。北京での日中国交正常化二十周年記念祝賀会(中国人民対外友好協会、中国日本友好協会主催)に出席

するため千田是也代表理事、白土吾夫専務理事、佐藤純子常任理事事務局局長、横川健常任理事事務局次長、中川モモコの諸氏が、上海での同祝賀会(上海市人民対外友好協会主催)に出席するため團伊玖磨代表理事、木村美智



若狭一滴文庫に水上勉常任理事(中)を訪ね、こおろぎの壺を贈る上海市文学芸術界連合会代表団の劉泉団長(右)、鄺国義氏(左)。水上氏は老舎を偲び「こおろぎの壺」と題するエッセイを書いている

——1992年3月9日 福井



服部敏幸氏(右四)を団長とする日本出版代表団が訪中、北京での国際図書博覧会を参観、会場で王業康(右一)、王仿子(左二)、劉果(左一)の諸氏ら中国出版印刷界の友人と交流する一行

——1992年9月2日 北京



会場で聴衆の拍手に応える一行
の三都市で公演。一九八三年につづく二
回目の訪中公演であった。北京での演奏

——一九九二年十二月二十八日 北京音楽庁



映画「ひかりごけ」について語り合う中国映画人代表団の康慶雲団長(右二)、熊井啓常任理事(右一)、松村禎三常任理事(左一)、三国連太郎氏(左二)

——1992年5月29日 東京



江崎誠致氏(左一)は、八五年以降、毎年のように文化界囲碁訪中団を率いて訪中、中国文化界の囲碁愛好者と「手談」による交流を深めた。観戦する陳祖徳中国棋院院長(左二)、厳文井氏(中)、葛康同氏(右二)

——一九九二年十月十八日 北京

子常任理事事務局次長がそれぞれ訪中。
●10月 日本文化界囲碁代表团(江崎誠致団長、浅野利昭、前野昭吉、伊藤礼、伊藤啓子、伊藤礼子、村上昭春、斎藤宜郎、笠

原淳、長野和枝、白川正芳、大門武二、大島正雄、大島政文らの諸氏)訪中。
●11月 日本作家代表团(黒井千次団長、高井有一、高樹のぶ子、佐伯一麦、横川健の諸氏)訪中。利根山光人常任理事が上海、杭州、紹興、天目山を訪れ、各地で写生、当協会が協力。「中国映画祭'92」開幕、当協会など後援。
●12月 熊本交響楽団訪中団(小堀富夫団長・熊本放送社長)一行百三十四名訪中、北京、南寧、桂林で演奏会、当協会が協力。

正常化二十周年に因む多くの交流行事がある中、三月に福岡で「日中環境法シンポジウム」が開かれた。中心になっているのは、日本を代表する民法学者で協会の常任理事、元東京大学総長の加藤一郎氏が会長を務める人間環境問題研究会の民法・環境法研究グループ。一九七九年、氏はあらゆる法制の整備が急務だった中国を訪れ、立法作業に追われる中国の法学者との交流を始める。以後、民法・環境法を中心とした、世に云うところの「加藤軍団」の交流が毎年行なわれ、現在も続いている。「継続は力なり」とは誰の言葉か定かでないが、文化交流にとって、「継続」は大切この上ない。息長く、世代を継いでなされる交流とそこで育まれ、熟成される友好の伝統は尊い。協会存続の原動力である。

(九十九)